

## 生物多様性・COP10 とは

### 生物多様性とは

「**生物多様性**」とは、あらゆる生物種の多さと、それらによって成り立っている生態系の豊かさやバランスが保たれている状態を言い、さらに、生物が過去から未来へと伝える遺伝子の多様さまでを含めた幅広い概念です。



この地球上には、科学的に明らかにされている生物種が約 175 万種、未知のものも含めると 3,000 万種とも言われる生物が暮らしています。これを「**種の多様性**(=いろいろな生き物がいること)」と言います。

また、地球上には、自然林や里山林・人工林などの森林、湿原、河川、サンゴ礁など、さまざまな環境があります。すべての生き物は、約 40 億年もの進化の過程でこれらの環境に適応することで、多様に分化したのです。この「**生態系の多様性**(=さまざまな環境があること)」も、生物多様性の一面です。

さらに、様々な環境に対応するためには、乾燥に強い個体、暑さに強い個体、病気に強い個体など、さまざまな個性をもつ個体が存在する必要があります。そのため、同じ種であっても個体間で、また、生息する地域によって体の形や行動などの特徴に少しずつ違いがあります。この「**遺伝子の多様性**(=それぞれの種の中でも個体差があること)」は意外と忘れられがちですが、大切な生物多様性の一面です。

数え切れないほどの生物種が、それぞれの環境に応じた相互の関係を築きながら多様な生態系を形成し、地球環境と私たちの暮らしを支えています。

自然が創り出したこの多様な生物の世界を総称して「生物多様性」と言います。



また、生物多様性とは、進化の結果として多様な生物が存在しているというだけでなく、生命の進化や絶滅という時間軸上の変化も含む概念です。

ですから、現在の生物の多様性をそのまま維持していくよりも、競争や共生など生物同士の自然な相互関係により、自由に進化・絶滅していくダイナミズムが確保されてこそ、生物多様性の保全につながるのです。

地域固有の歴史が育んだ生物がそれぞれにふさわしい環境で生き続け、健全な生態系が持続するように、人間の活動自体を自然に調和させることが重要だと言えます。